

# 新入館員 奮闘記

稲垣 宏行

皆様には、今回初めてお目にかかることとなります。今年4月、京都外国語大学附属図書館に配属されました、稲垣宏行です。この場をお借りしてご挨拶をさせていただきます。

図書館で仕事を始めてから、既に3ヶ月が経過しました。最初は、図書館が今までとは全く違った雰囲気の職場であったために戸惑ったりしたこともありました。特に、図書館の一般的業務は勿論、それに関わってくる十進分類法の分類記号や、図書館の専門知識について理解することは難しいことです。あまりにも専門的な分野ですので、自分に果たして全部覚えられるのか、と不安になったりしたことも何度かありました。しかしそんな私も、今では何とか分類記号も100の項目（分野）を覚え、図書館の仕組みについてのおおまかな知識を得ることができました。

図書館で実際に働いてみるまで、図書館という仕事は、それまで私が携わっていたものよりも仕事の分野が狭いものだというイメージを持っていました。私は、近所の公共図書館をよく利用していましたが、主な業務が図書の貸出・返却、時々新着図書の業務をしているというくらいにしか考えていませんでした。また、それほど突っ込んで図書館の業務自体を考えてみたこともありませんでした。しかし、実際に今の仕事に触れてみて、その認識が非常に甘かったことを痛感することになりました。

まず私は、『日本十進分類法』の存在すら、図書館に配属されるまで知りませんでした。背表紙のラベルに書かれた番号は見た記憶があるのですが、その意味するところには全くとっぴいほど意識していなかったのです。今でこそ十進分類法の大まかな部分を習得しましたが、少し前の私が、どれほど図書館について知らなすぎたか、

まだ3ヶ月ですが、ひしひしと感じています。十進分類法は文字通り、10の項目ごとに進展していく分類の仕方ですが、実際はさらに形式区分・言語区分なども入



り、もっと細分化され、世界中のあらゆる科学体系に適用できるようになっています。このように、社会の変化に対処することのできる分類法があることを知ったこと一つ取っても、私にとっては画期的な知識で、図書館の仕事の奥深さが実感できます。

また、最初はラベルの貼り付け、分類番号の記入というのが主な作業でした。最近では、図書のデータ入力といった、専門的な業務も担当するようになりました。データ入力の仕事を任された当初はなかなか慣れず、先輩の方に教えていただいていたことも多々ありました。作業の手順も細かかったこともあり、入力していないところがあったといったミスも何度かやってしまいました。今現在は先輩のお蔭もありまして、大分慣れてきました。

さらに私は週に1回、カウンターでの窓口業務もやっております。今のところは、窓口業務も図書の貸出・返却業務が主です。時々、利用者に学術情報を提供するレファレンスでは、私では対処できないようなことも出てきます。そういった事態に際しては、図書館の先輩のサポートを得て解決していますが、自分もいずれはそれらに対応できるようにならなければなりません。私は積極的に窓口の前の方に出て、実践を重ねることによって習得していこうと努力しています。実際に前の方で業務をしていますと、自分が知っていると思っていることでも、意外に分からないところがある、忘れていところがあると気づかされることが時々あります。そういった部分も、窓口で実践を重ねることによって補強するように努めています。

しかし、これらもまだほんの一部なので、更に精進を重ねなければと思う今日この頃です。

いながき ひろゆき（情報サービス課 係）